



## 「キリストの復活、それは永遠の希望！」(要旨)

マタイの福音書 28 : 1-4, 5-6 説教者 原田憲夫

説教前賛美 : 21 讃美歌 323 番 (1,3,4)

説教後賛美 : 21 讃美歌 474 番 (1,3,4)

今週の聖句 : 使徒 4 : 33

序

ゴスペル・クワイヤ指導者 : ケン&ボラ・テイラーご夫妻のこと ;

ご夫妻は試練の中で、「すべての理解を超えた神の平安」に心が満たされた。復活のキリストへの全面的な信頼によって、「永遠のいのち」という神の国の保証、地上の人生の終着点を「卒業」し、「新しい旅立ち」の向かう先、「天の国の国籍」をいただいていたのだ。

[1] 「マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った」(1~4 節)

墓は、古今東西-死者の思い出の場所。また生きている者にとって死の世界の象徴であり、その生と死の境に置かれるのが墓石である。

が、なんとその墓石が転がされ、その上に主の使い(天使)が座っていたのだ。

主の使いは弟子たちに大切なメッセージを伝えるために「天から降りてきた」。

[2] 「よみがえられた」(5,6 節)

(1) 失意と絶望の極み-十字架

死は、私たちに残された最後の希望さえも奪ってしまう過酷な出来事、失意と絶望の極みである。

イエス・キリストは、時の権力者にまったく罪を認められないと判断されながら、十字架による死刑を執行された。正義が否定された瞬間だった。

もしこの聖なる方さえもこんな不条理な死を迎えなければならぬとしたら、私たちに一体どんな希望があるというのか。

キリストの十字架は、全人類の失意と絶望の象徴となった。

(2) 失意と絶望を打ち砕く復活

しかし同時に、キリストの十字架は、私たち全人類の罪をすべて引き受け、その罪を滅ぼし、永遠の救いを与える、との神の愛の結実の

場となった。それを確証したのが、今、二人のマリアに主の使いが伝えたメッセージである。

「ここにはおられません。・・・よみがえられたのです。」

失意と絶望、死の力を打ち砕く希望、それがキリストの復活だったのだ。

・「聖墳墓教会」(MPLM)

[勧め]

今日の私たちにとって大事なことは、復活の出来事を知っているだけでなく、その復活の力を知ることである。

私たちは光に背を向け、自分の内面に抱える闇、聖書が罪と呼ぶ内面の醜さにしばしば打ちめされる。死におびえる自分を知っている。が、罪に打ち勝つ力を見いだせない。

だがキリストの復活は、十字架を目の当たりにし、失望と絶望を味わった弟子たちの目の前で起きた現実の出来事だった。それは弟子たち自身を新しく生まれ変わらせ、キリストのために生きる真の喜び、永遠の希望をもたらした。

死から復活されたキリストは、いつも私たちの先を行かれる。私たちが道に迷っている時も、重荷に喘いでいる時も、死の不安におびえている時も、私たちの先頭を歩み、私たちの横に並び、手を取り導かれる。

私たちはみな、いつの日か地上の旅路を終える時-卒業する時を迎えるだろう。しかしその先、「新しい旅立ち」の向かう先-「天の国-天国」が見えているだろうか？

今日、あなたの人生を、未来をこのキリストに預け、その復活の力を知って頂きたい！

キリストの復活、それは私たちの永遠の家-天の国へ導く希望である！

